

歯科診療・口腔ケア
における

救急 & アクシデント 対応ハンドブック

監修 森悦秀

編集 山田朋弘／大山順子／熊丸 渉
杉山悟郎／矢内雄太／石井広太郎

全部載っています

アクシデント・偶発症対応

救急来院時の対処

(疼痛・腫脹
出血・外傷)

全身状態の把握

救命処置

診療の体制作り

● 安全な歯科診療・口腔ケアを行うための体制作り
● 高齢者の全身状態の把握
この二つを核にした

「万が一」のために
読んでおきたい
「万が一」のときに
役立てたい

医歯薬出版株式会社

感染予防， 針刺し事故対応

森 悦秀

ポイント

普段から行っておくこと

- ◎ 所属医療機関の感染対策マニュアルの確認，理解，シミュレーションそして訓練。
- ◎ 院内感染の研修受講（年2回以上，歯科診療所は外部開催講習会受講で代替可）。
- ◎ 可能であれば各種ワクチンの接種。

診察時

- ◎ 標準予防策（standard precaution：SP），必要に応じて感染経路別予防策。
- ◎ 感染症に関する問診と毎回の体調確認。
- ◎ 注射針，メス刃，縫合針，超音波スケーラーの配置，取り扱いに注意する。
- ◎ 針刺し事故が起きたら一次処置後，管理者に速やかに報告して，感染対策マニュアルに沿って対応する。

院内感染（医療関連感染）とは

院内感染とは，患者，医療従事者を問わず，病院内で体内に侵入した微生物によって引き起こされる感染症を指すが，病院機能の多様化による地域でのネットワーク化，在宅サービスの普及により，病原体への曝露・感染場所の特定が難しくなった。2007年，米国疾病予防管理センターは「院内感染」という用語を「医療関連感染」に変更することを提唱した。外来および在宅については，内科的または外科的介入に関連した感染症も医療関連感染としている。しかしながら，必ずしもこの用語が普及しているとはいえないため，本項では一部の「院内感染」の用語を医療関連感染の意味で用いている。

院内感染対策の体制作り

わが国では2007年の医療法改正により，医療安全と院内感染に関して全医療機関に対策が義務づけられた。院内感染対策では，以下の4点が義務づけられた。

- ① 対策指針の策定

デンタルチェア上の救命処置

一杉 岳, 横山武志

ポイント

- ◎ デンタルチェア上での心肺蘇生（CPR）を学ぶ。
- ◎ 歯科診療中の誤飲・誤嚥に対する予防や対処法を学ぶ。
- ◎ デンタルチェア上での異物による気道閉塞の解除法を学ぶ。

歯科診療中の心停止への対応

本項では心停止などの可能性がある状態でどのように対処すべきかというポイントについて述べる。（図1）。

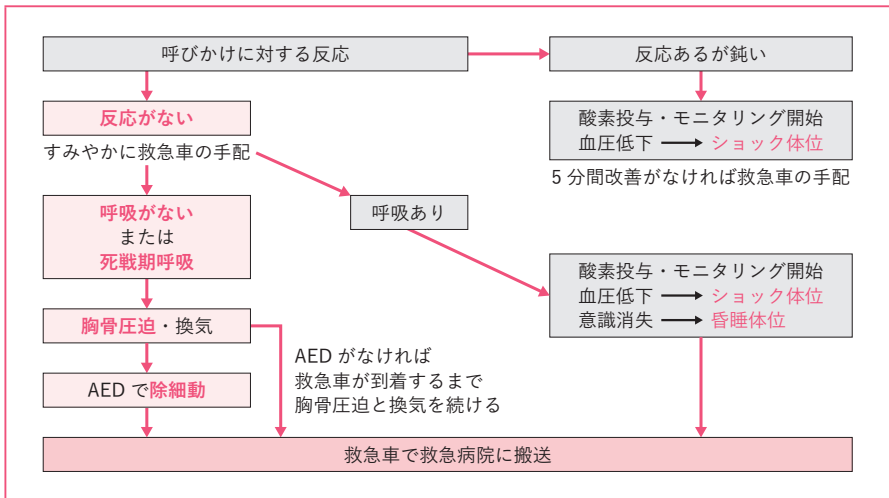


図1 歯科診療中の心停止への対応¹⁾

抜歯時の根尖部破折

中島康経

ポイント

- ◎ 抜歯前にX線撮影を行い、歯の形態や植立方向、骨癒着の有無を確認する。
- ◎ 根尖破折時は再度X線撮影を行い、根尖の長さや形態などを確認し、抜去に必要な戦略を立てる。
- ◎ 根尖破折歯の抜去で侵襲の高い処置や時間を要する場合は専門医へ紹介する。

原因/病態

- ・ 単根歯は鉗子で回転作用を加えることが可能であるが、根の彎曲、肥大、骨癒着のある場合、無理な回転運動は歯根破折の原因となる（**図1**）。
- ・ 歯根が開大した複根歯は、一方向のみに力を加えると破折しやすい。
- ・ 小白歯の便宜抜歯は比較的破折が多い。

診断

- ・ 術前にX線所見で不明瞭な根の形態や骨硬化像を認めた場合、CT撮影を行い、ヘーベルをかける位置や根の分割位置、骨削除部位などを検討する。

処置

- ・ ガーゼなどで圧迫止血を行い視野の確保に努める。

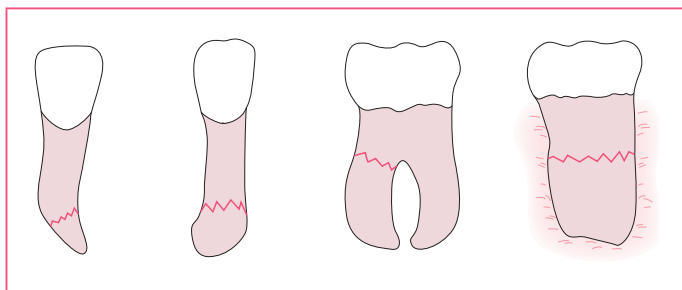


図1 破折を起こしやすい根の形態

左から根彎曲、根肥大、歯根開大、骨癒着。

急性歯髄炎/急性根尖性歯周炎/歯周病急発

和田尚久

ポイント

- ◎ いずれも自発痛や腫脹などの症状が強い症例が多いため、早い診査・診断・処置が求められる。
- ◎ 症状が類似していることや強い疼痛により患歯の特定が困難な症例が多いことから、的確に診断するために診査・検査を注意深く行う必要がある。
- ◎ 急性根尖性歯周炎の対応時は患者の痛みに対する配慮が特に求められる。

鑑別診断

診査・検査項目による各疾患の特徴を表1に示す。

表1 鑑別診断時の各疾患の特徴

	急性歯髄炎	急性根尖性歯周炎	歯周病急発
自発痛	+	+	+ or -
歯肉腫脹	-	+ or -	+
瘻孔	-	+ or -	+ or -
打診痛	+ or -	+	+ or -
歯肉部圧痛	-	+ or -	+ or -
歯の動揺	-	+ or -	+ or -
歯周ポケット	-	+ or -	+
デンタルX線検査 (典型的な所見)	所見なし	根尖周囲に透過像	歯槽骨辺縁に透過像
デンタルX線検査 (瘻孔からGP挿入)	-	GP先端が根尖部に位置	GP先端が歯槽骨辺縁に位置
電気歯髄診	反応あり	反応なし	反応あり or なし
温度診	反応あり	反応なし	反応あり or なし
切削診	反応あり	反応なし	反応あり or なし

※ GP：ガッタパーチャ

個人用防護具（PPE）の着脱方法

木附智子

感染対策の基本となるのは標準予防策の遵守である。特に歯科治療や口腔ケアはエアロゾルが発生するために十分な感染予防策が必須であり、適切な個人用防護具（PPE）を装着の上、処置に臨まなければならない。

ポイント

- ◎ 汚染物質が飛散・曝露しないように個人防護具を着脱する
 - ◎ PPE 着用中は、顔・髪などに触れない
 - ◎ PPE を外した後の手指衛生も忘れずに行う
- 個人防護衣（ガウン）の着用方法

